図書館通信

第25号　１１月１３日（木）
名　古　屋　経　済　大　学
高蔵高等学校・中学校　発行

「特別講演会」を開催しました！

「校内読書週間」も、いよいよ明日14日（金）までとなりました。これまで、たくさんの先生方、生徒の皆さんに来館し、各企画を見ていただきました。ありがとうございます。この「校内読書週間」中、まだ来館していない方は、関連企画をぜひ見に来てください。よろしくお願いいたします。

さて、11月4日（火）の放課後、「校内読書週間」の特集企画「戦後80年を迎えて」の一つとして、「特別講演会」が開催されました。南山大学国際教養学部の南祐三准教授を講師にお招きし、「フランスの第二次世界大戦と戦後80年」というテーマでお話しいただきました。20名の参加者を数え、盛況な講演会となりました。参加していただいた皆さま、そして、講演をしてくださった南先生、ありがとうございました。

フランスの戦後80年をめぐる歴史認識は、歴代大統領の発言に基づいて振り返ると、1940年から44年まで存続したヴィシー政権をどう評価するかに関わります。これまでの歴史研究から、同政権がナチス・ドイツへの「自発的」な協力政策を進めた実態が解明されてきました。そのようなヴィシー時代の「過ち」を、フランス国民はようやく1990年代半ば以降、認めつつあります。現在のマクロン大統領が数年前、ヴィシー政権の首班ペタン元帥を擁護した際には、国民の非難が集中しました。ヴィシー政権とその対独協力政策を初めて批判したのがシラク大統領。彼の発言から、次の言葉を紹介します。**「われわれの歴史の暗黒の時代について何も隠し立てしないこと。それはまさに、人間の思想を、その自由と尊厳を守ろうとすることなのです」。**

南先生のお話は多岐にわたり、難しかったかもしれませんが、参加者の皆さんは講演を熱心に聴いていました。以下、皆さんの感想を一部抜粋して紹介します。

★　授業で学んだことをさらに深めることができたので、おもしろかったです。隠された歴史から真実を掘り出す研究がすごいと思いました。

★　フランスがナチス・ドイツに支配されていた４年間の忘却・隠蔽から、「過ちを認めること」へと変化していったことに驚きを感じました。歴史への向き合い方の大切さを学べました。

★　フランスの第二次世界大戦について知らないことばかりだったので、話がとても新鮮でした。

★　過去のできごとに対する正しい情報を得ることは、国の政策が今後、どのように動いていくのかに大きな影響を与えると思いました。

★　歴史を学び、振り返り、真摯に反省する姿勢を持つことが、惨劇を繰り返さないためにも必要だと痛感しました。

★　歴史とは過去の単なる記録ではなく、過去から現在に至るまでの社会の価値観に密につながっていると改めて思いました。また、批判的なまなざしで物事を捉える大切さも分かりました。

久しぶりの博物館企画の紹介です。この企画展は現在、ＩＮＡＸライブミュージアム（常滑市）にて開催中で、古代中国の墳墓に副葬された陶器のミニチュア模型が展示されています。陶器のミニチュア模型を見る機会は、あまりないのではないでしょうか。おもしろそうな企画です。